

HPVワクチンに関する情報提供について： ヘルスコミュニケーション学の観点から

帝京大学大学院公衆衛生学研究科
石川ひろの

ヘルスコミュニケーションとは

- 健康を増進する個人とコミュニティの意思決定に情報を提供し影響を与えるためのコミュニケーション諸戦略の研究と利用

(Healthy People 2010)

- ヘルスコミュニケーションは、市民に健康問題に関する情報を提供し、重要な健康問題に対する市民の関心を維持するためのカギとなる戦略である。マスメディアやマルチメディア、その他の革新的な技術を用いて、市民に有用な健康情報を広め、個人や集団の健康の特定の側面や発達における健康の重要性についての意識を高める。

(WHO: Health Promotion Glossary, 1998)

科学コミュニケーションの考え方

(藤垣, 廣野, 2008)

- 欠如モデル: 専門家による科学的評価を一般市民が受容できないのは、一般市民に知識がないから
 - コミュニケーションによって、情報を受け取ることにより一般市民は知識の増えた状態へ移行し、正しい行動を取れるようになる。
- 文脈モデル: 一般市民は知識がないのではなく、専門家の科学的知識とは異なる文脈における知識や判断基準をもつ
 - 受け取った知識を日常の文脈の中で位置づけ、自らの周りの状況に役立つ形で蓄積する。
 - コミュニケーションは、専門家から市民への一方向ではなく、互いに知識を受け取る双方向性のもの。
 - 一般市民は、受動的に知識を受け取るだけでなく、それをもとに判断し、意思決定に参加することが求められる。

予防行動を促すことの難しさ

- **Prevention Paradox** (Rose, 1981, 1985)
 - 集団としては大きなベネフィットを持つ予防でも、各個人が期待できる恩恵は通常ほんのわずか。
 - そのわずかな恩恵は小さなリスクによって簡単に凌駕されてしまう。
 - 集団レベルで見るとそうなる可能性が高いことは事実であるが、個人レベルでは必ずしもそうではない。
- **時間割引**
 - コスト(リスク)は今、ベネフィットは将来。
 - 非現実的楽観主義

医療文書の分かりやすさ評価 (Suitability Assessment of Materials: SAM)

1 内容
(a) 目的: タイトルまたはイントロダクションに文書の目的が書かれているか
(b) 内容: 問題解決のために取るべき行動・活動が書かれているか
(c) 範囲: 不要な情報がないか／情報量が多すぎないか
(d) 情報不足: 知りたい情報が書かれているか
(e) まとめ・要約: 文書の最後にまとめや要約があるか
2 わかりやすさ
(a) 文章のリーダビリティ: 文章が読みやすいか
(b) 文体: 語り口調・能動態で書かれているか
(c) 語彙: 語彙が難しすぎないか
(d) 文構成: 新しい情報の前に内容が提示されているか
(e) 先行オーガナイザー: 見出しやこれから書かれる内容の大枠についての簡単な説明があるか
3 みやすさ
A 図表やイラスト(イラスト・リスト・表・図・グラフなど)
(a) 表紙の図表やイラスト: 親しみやすい、関心を引く、目的が明確に表されているか
(b) 図表やイラストの種類: 簡潔で読み手になじみがあるか
(c) 図表やイラストと内容の関連性: 重要なポイントだけを視覚的に表現しているか
(d) 図表やイラストの指示・説明: 図表やイラストの意味や見方についての指示や説明があるか
(e) 図表やイラストのタイトル: 図表やイラストの内容を示すタイトルがあるか
B レイアウトと活字
(a) レイアウト: 適切か
(b) 活字の種類: 大きさや種類が適切か
(c) 情報のまとめり・小見出し: 情報が小さく分けられそれに見出しがついているか
4 読み手の認知感情面への配慮
(a) 文章や図表のイラストのインターアクション: 情報が一方的に伝えられるのではなく、読み手が問題を解いたり質問に答えたりすることが求められているか
(b) 望ましい行動パターン・モデル: モデルとして示されているか
(c) 動機づけ: 読んで理解できる気がするか. 望ましい行動や活動が自分にできる気がするか
(d) 読み手の不安感への配慮: 読み手の不安感を過度に増していないか
(e) 読み手への姿勢・態度: 読み手を一人の人間として尊重する姿勢や態度が感じられる表現か

例えば、青のリーフレットを見ると:

- 情報量多い。
- 検討後どう行動したらいいかの情報は不足?
- リーダビリティ評価は低い。
- 語彙が難しい。(専門用語が多い)
- どう検討し、検討後どうするという行動のモデルは示されていない。
- 副反応の記載の仕方は、不安を増す可能性はある。過度かどうかは?

リーフレットについて: 誰を対象とするのか

- 「HPVワクチンの接種を検討しているお子様と保護者の方」(青リーフレット、p1)

→趣旨からすると、検討していない者も含め、ワクチン接種対象者全体に向けて発信していくべきでは。

- リーフレットの目的は、ワクチン接種行動そのものを促すことではない。
- 適切な知識と情報を得た上で判断、意思決定してもらうこと。

リーフレットについて:

意義と効果 (青リーフレット、p1)

- 感染を防ぐメカニズム (なぜ効果があるのか) よりも、意義と効果そのもの (後半の箇条書き) を示すデータをグラフ化する、死亡だけではない重大性を具体的に示すほうが効果が伝わりやすい。
→ 結論を先に示し、根拠を後から。
- 「HPVワクチンは、積極的にすすめることを一時的にやめています」
 - レイアウト上、意義と効果の結論のように見える。
 - 主語と述語があっていない。
 - あいまいさは、受け手の解釈の相違を生み、コミュニケーションエラーのもと。

リーフレットについて:

副反応(青リーフレット、p2)

- 専門用語の多用。
- 「ワクチン接種後に起こりえる症状」における「まれですが...」の位置づけ

→大きく示すことで、「まれ」の受け止めに影響する可能性。頻度としては、上の項目の一番下に置くほうが解釈しやすい。

- 副反応疑い報告数などの数値の解釈

→その人の中に基準がなく、ゼロリスクを期待されると、どんな値も大きく感じる。

- 審議会、救済制度に関する記載の位置づけ

→制度があるという信頼、安心感を生む側面と、それを必要とする事態があるという不安を生む側面。意図通り受け取られやすい文脈に。

どう働きかけるか

二重過程理論：人が意思決定をする際、2つのプロセスがある。

- システム1

時間や労力をかけずに、無意識的、自動的、直感的に判断する。

→リスクやベネフィットの情報よりも、感情的な反応を引き起こし、意思決定、行動を促す。

- システム2

情報をよく精査、吟味し、熟考した上で判断を下す。

意識的に努力して多面的に比較し、選択肢を選ぶ。

→行動のメリットやデメリットを吟味し、望ましい判断ができるよう、正確な情報を十分に提供する。

どう働きかけるか

二重過程理論から考えてみると:

- システム1による働きかけを、接種・非接種の行動そのものを促すために使う状況ではない。が、
- システム2による意思決定が働く(妨げられない)ように、システム1の影響に注意することは必要。
 - 分かりやすさ
 - 社会的証明
 - 行動につながる情報の提供
- 長期的には、情報の受け手(国民全体)のヘルスリテラシー向上に向けた取り組みも必要。

分かりやすさ

- 処理流暢性 (Processing Fluency)

- 認知的容易性 (cognitive ease) : 認識しやすい刺激 (文字、画像、音声など) を提示することで、そのメッセージに対して親しみや快さ、信頼を感じやすく、受け入れられやすい。

- ✓ インフォームドコンセント説明文書の表現をわかりやすく改善することによって、読み手の理解度だけでなく、安心感、満足感の評価が高くなるという報告。(野呂, 邑本, 2009)

- 提示された情報が見にくく読みにくいと、受け手はその情報に書かれている行動をとらない可能性が高くなる。

→情報を絞り、さらに必要な人向けに詳しい情報を別にまとめる方法も。

社会的証明

- 人は、特定の状況である行動を行う人が多いほど、それが正しい行動だと判断する。
- 特に自分が確信を持ってない時、状況があいまいな時によりその傾向が強くなる。自分と似た他者の行動には影響されやすい。
→接種状況のデータの示し方に注意。

行動につながる情報

- 情報をもとにどう行動したらいいのかが分かるように示す。
 - 具体的に行動がイメージできる→行動できると思える。
 - 意思決定支援ツール (Decision Aid) 的なもの。
 - 接種する・しないと決断した場合の双方の行動モデルが示されるとよい。
- 統計データとナラティブ
 - 数字は考え方 (態度、信念) に、ナラティブは行動の意図に、より強く影響 (Zebregs et al., 2015)。→併用が良い。
- フレーミング
 - 行動のメリット (Gain-frame) と、行動しないデメリット (Loss-frame) のいずれかを強調することによる説得効果は混在。